

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—124268

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 65 D 33/30

識別記号

庁内整理番号  
7234—3E

⑬ 公開 昭和59年(1984)7月18日

発明の数 1  
審査請求 有

(全 3 頁)

⑭ 袋

東京都板橋区赤塚新町3の21の  
11

⑮ 特 願 昭57—232840

⑯ 出 願 人 有限会社容研

⑰ 出 願 昭57(1982)12月25日

東京都港区六本木3の4の25

⑱ 発 明 者 木村欣一

⑲ 代 理 人 弁理士 鈴江武彦 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

袋

2. 特許請求の範囲

両側に沿って形成された1対の側部封止帯と  
両端に沿って形成された1対の端部封止帯とに  
より封止され、柔軟性を有する袋本体と、一方  
の端部封止帯に沿って、側部封止帯にまで延出  
し、この延出方向に沿って開封可能な開封予定  
帯と、前記各側部封止帯に、これに沿って延出  
するように取着され、靱性を有する線材と、前  
記開封予定帯の側部封止帯に延出した部分に形  
成され、先端が線材を超えて内方に延出した切  
欠部とを具備してなることを特徴とする袋。

3. 発明の詳細な説明

この発明は合成樹脂やアルミニウムのような  
シートで形成され、内に食料品等を封入した袋  
に関する。

従来、この種袋においては、一部取出した後  
の残りの内容物を保存するためには、開口部を

輪ゴムなどの別の部材で巻付けて留めて再封止  
している。しかし、このような部材は常時手も  
とにあるものではなく、また開口部への巻付け  
並びに取外しには面倒であり、特に幼児ではこ  
れら作業が大変難しいと云う欠点がある。

従って、この発明の目的は、必要な時に開口  
部を再封止して内容物を保存することができ、  
かつ再封止作業並びに開封作業の容易な袋を提  
供することである。

以下にこの発明の一実施例に係る袋を添付図  
面を参照して説明する。

図中、符号1は袋本体を示し、例えば合成樹  
脂やアルミニウムのような柔軟性を有する材質  
により形成されている。この袋本体1の両側  
には、これに沿って延出するようにして、1対の  
側部封止帯2、2が形成されている。また両端  
にもこれに沿って延出するようにして1対の端  
部封止帯3、3が形成されている。これら封止  
帯は、袋本体1を構成する2枚のシートの縁部  
を封着することにより、例えば形成されてい

特開昭59-124268(2)

る。かくして袋本体1はこれら封止帯により密封されている。前記側部封止帯2, 2には、夫々これに沿って延出するようにして、剛性を有する線材4, 4が取替されている。この線材はシート間に位置させることにより、シート間の融着時に封止帯中に取替され得る。この線材はアルミニウム線をアニーリングすることにより、例えば形成され得、手で容易に折り曲げることができる程度の撓性を有している。前記袋本体1には一方の端部封止帯(上方の端部封止帯)3近くに、これに沿って延出するようにして開封予定帯5が設けられている。この開封予定帯5はその両端が袋本体1の両側縁まで、即ち両側部封止帯2, 2の所まで延出している。この開封予定帯5は、袋本体1が切り裂き容易方向を有していない部材で形成されている場合には、切り裂き容易方向を備えたシートを袋本体1の少くとも一方の面に貼着することにより形成され得る。この実施例では、長手方向に切り裂き容易方向を有するように、長手方向に延伸され

た合成樹脂テープにより形成されている。このようなテープに代えて、互いに微小距離離間して平行に延出され、自身では切り裂き容易方向を有さない1対のテープを使用しても良い。この場合にはテープ間に応力集中が生じるので、この部分が容易に切り裂かれ得る。勿論、袋本体1自体が切り裂き容易方向を有していれば、上述したテープを貼着する必要がない。

前記開封予定帯5の側部封止帯2に延出した部分には、線材4を越えて内方に延出するようにして切欠部6が形成されている。この切欠部6は側部封止帯2に切り線を入れ、この部分の線材4も切断することにより形成されている。

上記構造の袋において、切欠部6の周辺を指で摘んで引くことにより、開封予定帯5に沿って容易に開封することができる。そして、収容物を保存する必要がある時には第2図に示すように、開口部近くの袋本体1の部分を折り曲げることにより開口部は再び封止できる。この場合、線材4も一緒に折曲されるので、この線材

4は塑性変形をし、折曲された部分がもとに戻るようなことが無い。従つて袋本体1の開口部の再封止が確実かつ容易におこなわれ得る。また、この袋本体を再開封する時には指で折曲部をもとに戻せば良いので簡単におこなえる。即ち、このような作業は、例えば幼児にも簡単かつ確実におこなえる。

上記実施例の袋では封止帯を、シート相互を融着した取替部で構成したが、切欠部が形成される封止帯以外は、連続したシートを折り返してなる折り返し縁で形成しても良い。また、封止帯は同幅でなくても良く、例えば切欠部を形成する部分を広く形成しても良い。

上記構成の袋においては、剛性を有する線材と、この線材より内方に延出した切欠部との組合せにより、袋本体の開封、封止並びに再開封の作業が、輪ゴムなどの別部材を使用せず容易かつ確実におこなうことができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

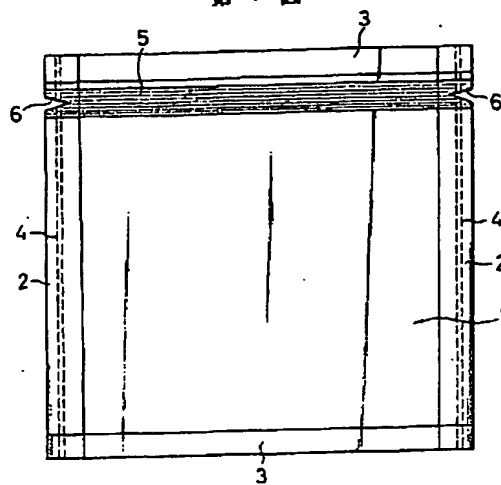
図はこの発明の実施例に係る袋を示し、第1

図は全体の平面図、そして第2図は開封後の封止状態を示す斜視図である。

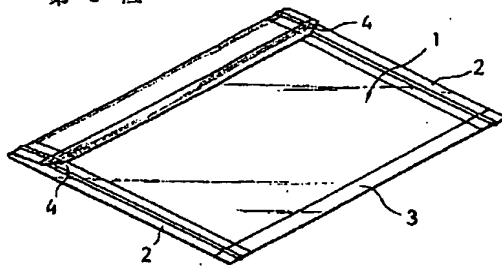
1…袋本体、2, 2…側部封止帯、3, 3…端部封止帯、4, 4…線材、5…開封予定帯、6…切欠部。

出願人代理人 弁理士 鈴 江 武 彦

第 1 図



第 2 図



BEST AVAILABLE COPY